

2024年7月5日（金）（東京教区）北支区連合祈禱会  
（午後7時開始。 Zoomオンライン開催）

## 奨励題：『ナアマンの土、ペトロの金』

奨励者 秀島（南板橋教会牧師）

聖書（旧約聖書）列王記下 5章17～19（a）節（P585）

（新約聖書）ペトロの手紙 I 1章6～9節（P428）

讃美歌（1954年版）： ① 11番（あめつちにまさる） ② 532番（ひとたびは死にし身も）

(1)皆様こんばんは。南板橋伝道所の秀島でございます。伝道所も教会の1つの形態ですから、南板橋教会と呼んで参ります。まず始めに、南板橋教会について概略を申し上げます。

○教会の場所は、地下鉄有楽町線または副都心線で、池袋駅から3つ目の駅「小竹向原駅」で降りて、徒歩約10分程度の場所です。商店街から10mほど先の住宅地区にあります。

○礼拝出席人数は10名前後です。小学生から90歳半ばまでの年齢構成です。数カ月前から、南アジアの若い留学生が礼拝に出席しており、英語での会話が可能です。

○毎月の礼拝の中で、月1回の礼拝は「交わり礼拝」と言ひまして、旧約聖書の創世記第1章から毎月1章を信徒が交代で解説し、参加者は感想を話します。創世記、出エジプト記と進めて、現在はサムエル記下の第5章に至り、合計で273章になりました。年数にして、約25年間続いています。

これを行なう理由は、1つには、無牧になった場合への対処であり、2つには、信徒訓練の実践です。

○序で乍ら、地下鉄小竹向原駅から教会までの道のりには、赤レンガの歩道があり、桜などの街路樹で四季折々楽しめます。私にはこの道は、川柳や俳句・短歌・詩を作る道でもあり、月刊誌「信徒の友」の文芸欄にほぼ毎月入選しており、全国の友人たちと互いに安否を確認する場になっています。

(2)今日の聖書箇所は、旧約聖書から列王記下5章です。アラム王国の軍司令官ナアマンの物語です。重い皮膚病で苦しんでいたナアマンは召し使いであるイスラエルの少女から預言者エリシャの所へ行けば治るとの話を信じて、敵国であるイスラエルへと出かけます。ナアマンの病気は予想を超えた方法によって治ります。物語の進展と共に、ナアマンが思慮深くなっていく過程が描かれています。皮膚病が治り、ナアマンは預言者エリシャにお礼の贈り物として金や銀などを送ろうとしますが、エリシャは断ります。そして、ナアマンはイスラエルの土を貰うことを願い出るので、土を持ち帰ることは、高校野球の甲子園の土を持ち帰るようであり、信仰の象徴の様でもあり、皆様はどの様に思われるでしょうか。

先に進みます。18節を見てみましょう。ナアマンはエリシャに、心の中の葛藤を、苦悩を打ち明けるのです。18節の文章は長いですが、全部で140字もあります。「ただし、この事については主が僕を赦してくださいませうに。わたしの主君がリモンの神殿に行って

ひれ伏すとき、わたしは介添えをさせられます。そのとき、わたしもリモンの神殿でひれ伏さねばなりません。わたしがリモンの神殿でひれ伏すとき、主がその事についてこの僕を赦してくださいますように。」

(3)皆様は、この様な状況に直面されたことはございませんでしょうか。日本では、勤務先に神棚を置いている会社や学校が、また、職場の敷地内に氏神様などの神域を置いている会社や団体が無数にあります。そこに勤務しておれば、朝夕の参拝や掃除当番がほぼ義務付けられることでしょう。クリスチャンの中にも、その様な状況に身を置かれている方々が少なからずおられるでしょう。教会はその様な方々の心の痛みに関心であってはなりません。

私は学生時代に教会に通い、洗礼を受けて就職しました。就職先ではほぼ3年毎に転勤があり、様々な会社との取引をしてきました。20歳代の後半の時に、ある中堅企業の専務取締役と面談している中に、この方はおそらくはクリスチャンであろうと推測しました。その方は会社の社長から経営の一切を任されており、多くの社員の生活を守り、会社の社内や敷地内にある神棚や神社への拝礼を勤めなければなりません。加えて、ご子息が大手のデパートへの就職を希望しており、デパートに就職しては日曜日の主日礼拝が不可能になってしまうとの、信仰者としての苦悩です。その専務さんはカトリックのクリスチャンでした。誠実なお働きで、会社の財務内容は抜群に優れていました。私自身も若い時に羽田空港、当時日本で唯一の国際空港で、夜勤や日勤をした経験がありますので、日曜日が休みではない日があり、主日礼拝に参加できないことがありました。礼拝に参加できることの喜びを体験し、参加出来ない時には心の中で礼拝に出席することの喜びを実体験してきました。

(4)今日の聖書箇所の一節の前半を見てみましょう。「エリシャは彼に、「安心して行きなさい」と言った。」この箇所をどの様に理解したらよいでしょうか。

ある旧約聖書の学者は、日本基督教団出版局発行の「旧約聖書略解」辞典に、次のように解説しています。(口語訳聖書に準拠していますので、新共同訳聖書の表現とは異なります。)「リンモンの宮(神殿)とは、アッスリヤ(シリア)の…国家的な神であり、これに礼拝することは…当然キリスト教信仰から批判されるべきものであろう。安んじて行きなさいとは、エリシャがナアマンの申し出を是認した意味ではない。エリシャはその決定を神に委ねて、単にさようならといったに過ぎないのである。」日本の著名な神学者の解説でした。私は思いました。キリスト教信仰がそんなに安っぽい信仰であるはずがない。キリスト教はもっと奥の深い信仰ではないのか、もっと温かい信仰ではないのか。

そして、話しは飛びまして、私が神学校に在籍中のことです。旧約神学の学びの中で、ドイツの神学者G(ゲーアハルト)・フォン・ラートの名著「旧約聖書神学」(副題:イスラエルの預言者的伝承の神学。荒井章三訳。教団出版局発行)を読みました。フォン・ラートは次のように記しています。【イスラエルの神に出会った一人の男が異教の地でどのようにすればこの神の礼拝を守ることができるであろうかという心配を述べる時、読者は感動したであろう。ナアマンが苦難の中で、たとえ尋常でない方法であったにしろ、信仰に典礼的な拠り所を得たいと試みた。…驟馬に乗せた土が一つの役割を果たすことになる。ナアマンの第2の願いは彼の葛藤の鋭さが顕わになる。エリシャの答えは、牧者的な洞察が込められている。エリシャが答えを避けたとか、いい加減に語ったのであるとす

るならば、その意味を誤解するであろう。エリシャは、ナアマンを異邦人・異教の世界へと送り込み、ナアマンとその信仰を、彼が仕えたと約束したヤルウェの導きに委ねている。】

私はこの文章に出会って、神学校に来て学んでよかったと心から思いました。礼拝学とは何か、その核心です。何故ならば、神との直接対話、真剣勝負です。

翻って、主日礼拝に遅れて来ることは已むを得ないことでもあります。日曜日の礼拝に出席するために、1週間の日常生活を整え、工夫することが大切です。礼拝中の真剣さとは、主イエス・キリストとの対面であります。自分自身との対面でもあります。礼拝はリラックスする時でありますので、礼拝中に足を組んで座り、肘をついて腰掛けることもありましょう。併し、ルカ伝でのマルタとマリアの場面の中で、マリアはイエス様のお話をどの様にして聞いていたのかが、ルカ伝10章には「マリアは主の足もとに座って」と書かれています。

(5) 蛇足ながら、先程申し上げました、教団出版局発行の口語訳聖書「旧約聖書略解」は私がある教会の教会学校教師をしていた時に、「新約聖書略解」と「聖書事典」の計3冊セットで当時11,400円の図書を教会学校の教師全員（数人ですが）がいただきました。教会の苦しい財政の中での支出でした。その牧師と役員は、教会学校の生徒の未来のためにこの3冊の分厚い本を擦り切れるまで使って欲しいと語りました。未来のために働く、未来のためにお金を使う、率直に申し上げれば、現在の教会が見失っている行動力ではないでしょうか。

私は長く、産業金融や国際金融の仕事をし、また会計学を学びましたので、お金をどの様に使うかが

その人の品格であり、行動力であることを骨の髄まで叩き込まれてきました。

序で乍ら、私は現在教団年金局の理事会で北支区の代表をしています。隠退された牧師教職やそのご遺族に差し上げる教団年金を維持・継続するための任務が与えられています。各教会から教団年金局に献げる「謝恩日献金」を皆様の所属教会からも確実に献金をして下さいます様をお願いいたします。

先程申し上げました牧師は召天され、ご遺族が教団年金を受けておられました。現職の教職が隠退後の生活を心配することなく、教会の御用に励まれることの1つの方策としての教団年金です。

小さな一歩が確実な一歩になります。エリシャは「安心して行きなさい」と言いました。この言葉は新約聖書にもイエス様の言葉として記されています。併し、よくよく注意して下さい。どの様な状況で言われているのでしょうか。決して単なる言葉だけの励ましではなく、きちんとしたセーフティーネットを備えた発言です。私は長い信徒時代にお金に係わる仕事をしてきましたので、物事を実務的に判断してきました。併し、実務とは理念の裏打ちがあってこそ実現するのです。その様にして聖書を読むと異なる景色が現れて参ります。

(6) 今日の聖書箇所のもう一つは新約聖書の使徒書、ペトロの手紙Ⅰ 第1章6節～9節です。私たちの人生が「いろいろな試練に悩まねばならない」中であって、「試練によって本物と証明される」、それは「金よりはるかに尊い」と書かれています。金（きん、gold）のことは、旧約聖書・創世記第2章エデンの園の説明の中に書かれています。

私は学生時代に金（きん、gold）のことや、お金（かね）の信用力が金（きん、gold）によって支えられていた「金本位制度」（きんほんいせい、the gold standard system）のことを調べました。

金は重さ1トンの土・岩石の中から僅か10数グラムを産出できれば鉱山事業として採算が合うとされています。その金よりも「信仰の実り」が「はるかに尊い」とペトロ前書は記しています。

今日は「ナアマンの土」と「ペトロの金」についての聖書記事から私の感想をお話いたしました。それはイエス・キリストの恵みと理解しても良いのではないのでしょうか。以上で奨励を終わり、お祈りします。

主なる神さま。本日は北支区連合祈禱会に招かれ共に御言葉を聞き、共に祈る機会を与えてくださり感謝いたします。北支区内48の教会は夫々に御言葉を取り次ぎ、伝道を行なう中で、共同での祈禱会を持つ機会を大切に参りました。

本日の祈りの対象教会である王子北教会のために、大泉教会のために、大泉ベテル教会のために祈ります。夫々の教会に連なる一人ひとりのために主の祝福があります様に。夫々の地域を照らす役割を更に増し加えてください。

ウクライナや中東や多くの地域で戦争により命が奪われています。私たちキリストの教会は見ざる、聞かざる、言わざる、であってはなりません。何としてでも平和を実現しなければなりません。私が学んできたロシア語にトルストイの小説「戦争と平和」があります。多くの困難を乗り越えて、平和が実現します様に。これらの祈りを救い主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。

〔**新共同訳聖書** 列王記下(5:17)ナアマンは言った。「それなら、らば二頭に負わせることができるほどの土をこの僕にください。僕は今後、主以外の他の神々に焼き尽くす献げ物やその他のいけにえをささげることにはしません。(5:18)ただし、この事については主が僕を赦してくださいますように。わたしの主君がリモンの神殿に行ってひれ伏すとき、わたしは介添えをさせられます。そのとき、わたしもリモンの神殿でひれ伏さねばなりません。わたしがリモンの神殿でひれ伏すとき、主がその事についてこの僕を赦してくださいますように。」(5:19 a)エリシャは彼に、「安心して行きなさい」と言った。〕

〔**口語訳聖書** 列王記下(5:17)そこでナアマンは言った、「もしお受けにならないのであれば、どうぞ驃馬に二駄の土をしもべにください。これから後しもべは、他の神には燔祭も犠牲もささげず、ただ主にのみささげます。(5:18)どうぞ主がこの事を、しもべにおゆるしくくださるように。すなわち、わたしの主君がリモン宮には行って、そこで礼拝するとき、わたしの手によりかかることがあります、またわたしもリモン宮で身をかがめることがあります。わたしがリモン宮で身をかがめる時、どうぞ主がその事を、しもべにおゆるしくくださるように。」(5:19)エリシャは彼に言った、「安んじて行きなさい。」〕

〔**新共同訳聖書** ペトロの手紙 I (1:6)それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、(1:7)あなたがたの信仰は、そ

の試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。(1:8)あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。(1:9)それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。]